

まちネット議事録

- 日 時：平成20年10月29日（水）18：30～20：45
- 場 所：市立公民館3階講座室
- 参加者：40人（進行：野路 記録：中村ふ）
- ゲストスピーカー：久 隆浩さん（近畿大学理工学部社会環境工学科教授）
- テーマ：「“ 出会い・交流の場 ” から広がるまちづくり ～岸和田の可能性～」

岸和田のまちづくりに興味・関心のある人の「出会い・交流の場」として「まちづくりネットワーク岸和田（愛称：まちネット）」は発足してから、早くも3年半が経ちました。

まちネット発足当初は、『「出会い・交流の場」って何やねん？』、「実際にはどんなことするん？」といった意見もありました。しかし今では、多くの参加者が「出会い・交流の場」の良さを実感し、まちネットを通じて、“まちづくりのネットワーク”を広げています。

今回のゲストスピーカーである久 隆浩先生には、まちネット発足時のゲストスピーカーとして、講演いただきました。これまでのまちネットの歩みを振り返りながら、“出会い・交流の場”の役割、まちづくりへの広がり、そして岸和田の可能性についてお話しいたします。

秋の夜長に岸和田のまちづくりについて、ワイワイガヤガヤ一緒にお話しませんか？

● 講演の概要

<はじめに…>

- 皆さん、こんばんは。お久しぶりの方もいるし、いつも顔を見ている方もたくさんおられます。
- 今日は「この前（平成17年4月のまちネット）は、何を話したのかなあ？今日は何を話そうかなあ？」と考えながら来ました。
- 昔話したことをチェックしながら考えてきましたが、どう考えても重なってしまいますが…。今日はみんなで、まちネットの存在意義がどうあるかについて考えてみたいと思います。
- まちネット立上げ時に話を聞かれた方は復習を兼ねて聞いて下さい。
- 『「まちネット」＝（イコール）“交流の場”』は、これからのまちづくりの鍵を握っています。最初はピンと来なかった人もまちネットを経験してわかってきたのではないかと思います。
- ところで…
 - ・ 2010年4月近畿大学は新しい学部を立ち上げます。総合社会学部です。近畿大学は医学部も持つ総合大学になります。
 - ・ 私も検討委員として入っており、事務局と何が近畿大学に足りないのかを考えてきました。
 - ・ 21世紀の社会をどう考えるか、どう捉えるか、21世紀の社会の仕組みを作ることが出来る人材が必要とわかりました。
 - ・ 21世紀のキーワードは「情報」、言い換えるとネットワークです。これをどう捉えるか



久 隆浩（ひさ たかひろ）先生です。
楽しくて分かりやすいお話でした。

が今日のテーマです。

- ・ 情報学科では、「環境」も柱になっています。環境政策、環境教育、環境技術など…。
- 吹田市でも地域コミュニティをどう考えるかがテーマになっています。連合町会長、社協、青少年委員長、地域活動者などで委員会を構成し、本日、市長に報告したところです。
- その中で時代が変わっているから地域も変わらないといけないという思いは委員の皆さん同じです。
- ある方が当初「たたき台がないのはどういうことだ!」、「雑談して何になる!」とおっしゃっていましたが、3, 4 回位すると、そういった意見もなくなってきました。
- 最後には「こんな会議の進め方もあるんやなあ」とおっしゃっていました。
- 現場で何が起きているのかは、身をもって体験していますので、その内容に対しては皆さんに“直”で話が出来ますね。

1、地域活動離れはなぜ起きる

- では地域でどういったことが起きているのでしょうか。
- 最近、人任せの人が増えています。自治会加入率が下がってきているのも一つです。これを一緒に考えましょう。
- 自治会に加入していない人は、何も困っていないんです。町会の役員さんが話しに行くと、「私は自治会の世話になっていません」といわれますが、「でも防犯灯の経費は自治会が払っていますよ」と言います。これは良く聞く話ですね。
- では、なぜ自治会に入らない人が増えているのか、近所づきあいがなくなっているのでしょうか。
- 近所づきあいに頼らない人は、制度やお金に頼っています。
- お金で商品を買うことが出来ます。例えばお葬式です。昔は近所の方がお手伝いをしました。「お互い様」という意識がありました。
- 今ではお葬式を行うのにも、葬儀会社に電話一本で大丈夫です。これは、お金で解決する典型的な例です。
- 今では大掃除もしてくれます。人に頼りたくない人はお金で済ませています。
- お金で解決できないことは制度が解決してくれます。役所、警察に頼ります。「何とかしてくれよ!」という感じですね。
- 公園管理の部署は、月曜日の 9 時に電話がジャンジャン鳴ります。「家の雨どいが公園の落ち葉で詰まっている。何とかしろ!」など…。
- 言い方を変えると「人任せ」になっているんです。お金と制度で解決するのは、近代の特徴の一つです。資本主義はお金で解決、法治主義は法律で解決です。
- 近代（モダン）をどう考えるか、どう変えていくかが根本になっています。
- でも、私一人では近代を変えることは出来ない。でも一人ひとりが（小さなことを）考えて変えることで少しずつ社会は変わっていきます。
- もう一歩二歩深く考え、一番身近な小学校区域を変えることは出来ないかと思っています。
- 小学校区を地域活動の基本単位としています。



- 岸和田市には地区市民協議会がありますね。これをどう位置付けるかがポイントではないでしょうか。
- 人任せの成果・結果が自分に都合悪いと文句を言ってくる人がいます。これは任せてくれないことと同じです。公共心の低下した人です。

2、できることをできる人ができるときに

- お金も制度も役に立たない時が来ます。例えば阪神淡路大震災でした。
- 震災直後は役に立ちませんでした。役に立つのはやはり近所づきあいでした。
- 災害時の避難訓練など、「地域防災」が地域をつなぐ手がかりになるのではないのでしょうか。
- なぜなのか？お金や制度が役に立たないのが災害です。いつ起こるかわかりません。
- でも必ず来るものがあります、それは「高齢化」です。そのための「地域福祉」がもう一つの地域をつなぐ柱になります。
- 「地域防災」、「地域福祉」。コミュニティをしっかりとさせるにはこの二つが重要です。
- ある自治体の話ですが、障がい児の父母会の方が話していましたが、「昔は役所がしてくれなかったから、自分たちが横でつながったんです。でも今は参加を呼びかけても、誰も会には入ってくれません。それは役所が何もかもしてくれるから、横でつながる意味がないとおっしゃいます」
- 役所が何もするなということではありません。福祉は充実する必要はあるが、制度任せになり過ぎていくということなんです。バランスをどう取るかがポイントですね。
- 十数年前に、ある先生に言われたことがあります。
- 「アンタのいうことは筋が通っている。でも実現性は90%の確立で難しい」と言われました。
- では逆に言えば、10%はあるということです。可能性があればやってみるんですね。
- 失敗したらどうするのか。このやり方がダメだったということがわかります。次を考えることが出来るんですね。でも、考えることが怖いから保守的になってしまいがちです。
- お客様を作らないことも重要です。お客様は人任せになります。少しずつ責任を持てば、文句言いは減っていきます。
- お客様を作らない仕組みをまちネットは持っています。それは、奇数月はみんなで話をすることです。みんなで話題を持ってくるのがその仕組みです。
- 「なかなか会の人数が増えない」、そういった悩みも、これも自分の責任になります。みんなが人を連れてくる、みんなが積極的に関わってこそ盛り上がるんです。
- 交流会の進行役の原則は、進行役が人を指名するのはダメです。何もしないのが大事です。これはすごく怖いことですよね。自分にプレッシャーをかけないで下さいね。
- 進行役が発言者を指名し始めると、みんなの発言が止まってしまいます。それはみんなの責任です。
- 「今日は話題がないなあ。じゃあ帰ろう」でも構いません。そうするとこの一言で、「チョット待って」という人が必ず出てきます。
- 人任せの人が多いのは、やっている人が自業自得とところもあります。やればやるほど誰も何もしなくなります。「あの人に任せれば良い」ということになります。悪循環に陥っていないでしょうか？
- 元気な地域の特徴は、①チョットしたお手伝いを頼める人を増やす、②どんな技術・経験を持

った人かを把握して、頼み上手な人が要ること。です。

- そういったのを、どこで把握するのかというのは、他愛もない世間話で経験談を聞いているんですね。
- ある地域で団地の集会室で高齢者サロンを開催していた時の話です。「俺は現役時代、ペンキ職人やったんやあ」という話をされており、それを役員さんが聞いていました。ある時、集会室の階段のペンキが剥がれてきた時に、お願いしたところ「よっしゃ、ええよ」と気前よく引き受けてくれました。おまけにその後も、自分が塗ったペンキが剥げていないか見回りもしてくれるようになりました。人は自分がやってきたことの延長上で頼まれると、喜んでやってくれるんですね。
- こんなことも一人ひとりの力は小さいが、集まればすごく大きな力になります。
- 何を頼んでも断らない人は、ネットワークが強い人です。
- 東大阪市の商工会議所はユニークです。キャッチフレーズは「私のところで出来ないことはありません」です。これは技術を持った人がたくさんいる、知っている、つないでくれる証拠です。
- これからはネットワークが大事です。組織力以上にネットワークだと思います。

3、交流の場からはじまるまちづくり

- ネットワークはつながりです。「呼び掛け」から生まれます。
- そのためには「呼びかける場所」が必要です。それが交流の場です。
- インターネットは世界規模の呼び掛けの場です。人類史上、これはスゴイ道具です。
- ところで最近の 20、30 歳代の男性は元気です。全然違います。会社をあてにしていない。地域を元気にしたいという想いを持っています。
- 最近川西市では、週末カフェが流行っています。それは週末だけ、家の中を片付け、オープンするカフェで 5、6 件はあります。その噂を聞きつけ、週末には 100 人位の人がうろうろしている。
- カフェ同士でスタンプラリーもしていますが、知り合ったきっかけはブログです。そのブログが結構面白く、それを見て新たにそれぞれの地域で始めようという人もいます。
- 団塊世代の人とカフェの店員が話をするとすごく面白いんですよ。カフェには昭和 30 年代のちゃぶ台、家具があり、団塊世代は「俺たちが捨てた物をどうして今の若者は集めるのかなあ」といった意見を持っています。そんな感じでワイワイガヤガヤ盛り上がっています。
- ブログでつながる、そして自発的につながる。ネットワーク社会では大事なことです。
- 自立的ということは、人任せではないということです。コミュニケーション能力とは、積極的に関わっていけるということです。
- 地域によって元気のある所、元気のない所もあります。来る人が元気なら、そこは元気な地域です。
- この 6 ヶ月で二つの交流の場の誕生をお手伝いしてきました。東成区と天王寺区です。
- 東成区では、子育て世代の交流の場です。最初の 2 回は動員をかけたので数十名来ましたが、



3 回目に動員をかけなかったところ、6 人だけでした。

- この 6 人が他の人に「次回も行かない？」と呼びかけましたが、「行く必要あるの？」という答えが返ってきたそうです。
- でも 6 人の中のある人が言いました。「これが今の東成区の現状なんですよ、これをどうやって増やしていくかが大事ですよ」。この方は交流の場を早くも理解されている方ですね。
- 天王寺区の小学校区では、「動員をかけなくても、来たいと思う人が集まることに意味がある」ということで、動員をかけずにスタートしましたが、残念ながら皆目集まらない状態です。
- でもその結果が今の状況だから、何年かけても元気にしていけば良いんです。
- 別の仕掛けもあります。新しい事を仕掛けると、もっと元気になります。
- つながり作りは「話を聞く」事が大事です。人の話を聞いて、ヒントを得る人が残っていきます。自分の気持ちで関わって、面白くて興味を持ってつながりを広げていくものです。
- 交流の場を始めるにあたって渋る人には、私はこう言います。「騙されたと思って 6 ヶ月続けて下さい。止めても元に戻るだけです」と…。

4、ネットワーク社会への対応

- 21 世紀の社会はネットワーク型社会です。近代の社会システムをどう新たなシステムに持っていくかがポイントです。
- これからの社会はこれまでのツリー型、ピラミッド型の社会ではなく、ネットワーク型の社会を目指すべきです。誰とつながるかは自分の意思です。
- インターネット、ブログはネットワーク型社会です。インターネットは管理できない道具です。道具が変われば仕組みも変わる、社会も変わっていきます。
- これからは組織ではなく個人のネットワークで動く、つなぐことが大事になってきます。必要な組織はここから生まれてきます。
- 岸和田市には地区市民協議会があるが、これをどう考えるかですね。組織なのか、つながりの場なのか？
- 今の地区市民協は組織になっています。つながりの場としての存在意義を発揮すべきではないでしょうか。非常に有効なまちづくりの道具です。便利な道具は使わないと損です。
- 年配の方は「インターネットは若者の道具や」と思っている方、苦手な人が多いようですが、そういう人はメールだけでも読めるようになって下さい。
- メールが読めれば、メーリングリスト（ML）にも参加出来ます。
- ML の特徴は幽霊会員が認められることです。費用がかからない。情報だけ見て、数年ぶりに参加しましたというのも OK です。緩やかにつながっていることが大事ですね。



◆初めてまちネットに参加した人を中心に自己紹介をしてもらいました。

- ・ だんじり劇場の方、市の職員、立命館大学院生、元町会長などの顔ぶれでした。

◆意見&感想

- 地域で手助けが必要な人にどう手を差し伸べてあげられるかが大事。したい人が集まってやれば良いのではないかな。

- 地域では「この指とまれ！」方式で行えば、必ず参加してくれる人が要る。「町内の公共」の観点が大事と思う。
- 岸和田に引越しして思うのが、だんじりのパワーが凄いこと。コミュニティの視点でみると凄いなあと改めて感じる。
- 伝統のあるまちなので少し入りづらいところもあるが、とてもみんなの顔がいい。

◆最後に久先生から

- 先程紹介した東成区の方はみんな仕事を持っています。
- 「時間がない」という人がいるが、それは自分が作らないから。ただの“逃げ口上”になっています。時間は作るものです。
- 交流の場は 2 人いれば交流になっています。一人になるまでやればいいと思います。(夫婦と同じですね。)
- でも 20 人以上いれば、色々な話題が出て盛り上がる。でもプレッシャーは感じないで下さい。

～参加者一言コメントの中に、「まちネットのきっかけが久先生だと初めて知りました。」とありました。私も初めて知った次第です。まちネットに初めて参加したときにまちづくりへの熱い想いに圧倒され、そしてとても熱い人たちだなあと凄さを感じた事を思い出しました。～（中村ふ）